

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける為に、地域の方々のご協力が必要不可欠なので、常に法人の理念や方針、取り組み等を話せる機会を作る目的で、施設の行事等に参加して頂いている。また自治会に加入したり、町内行事にも参加し、出来る限り地域住民と交流が図れるようにしている。	○	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	就業規則や日々介護の中等で、運営理念を浸透できるよう徹底している	○	
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。（ホームの説明会、会報誌等）	○	
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の人達が、気軽に遊びに来たり、立ち寄れるように、毎週木曜日に魚市場に鮮魚の買出しを行い、地域住民にも安価で分けている。また当法人の地域住民に対して、日頃から関係を深める働きかけを行っている。（自治会加入、町内行事への職員の参加等） ホームとして町内会に加入し、今年度は組長をしている。毎年、年末には当法人関係者、御家族、ボランティア、地域住民で忘年会を実施している。	○	入居者と一緒に回覧板や市制便りの配布を行い、町内会費の集金日には近隣の方ひとりひとりの交流を心がけている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館で行われている行事に入居者と一緒に参加し、交流を図っている。又、地域清掃などに積極的に参加している。	○	地域の方からのお誘いで入居者と共に、ご自宅に訪問したり、一緒にドライブに出かけたりしている。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年1回主治医の先生に参加して頂き、勉強会を行っている。又、家庭の医学として地域の方にも役立つ知識の為に勉強会を案内し参加を呼びかけている。	○	月に1年往診に来られた際、主治医と介護職員で状況や方法など話し合っている。

福岡県 グループホームやまびこ 地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に1回のミーティングの中で、質の確保及び向上につながる様に改善に務めている。	○	
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回開催し、職員による活動報告を元に意見や要望を汲み取り、事業所内で持ち寄りサービス向上に活かしている。また構成員のメンバーに大学の教授、准教授2名の方が居られ、当法人にとっての良きアドバイスも頂いている。	○	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○	
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	数年前に一度社外研修において、成年後見人制度についての勉強会に数名参加した事がある。	○	職員全体に学ぶ機会を与える為に今後も引き続き研修計画に掲げたいと思います。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティングに於いて、高齢者虐待についての話し合いを持っている。虐待の現場を発見したら、管理者、市町村に通達するよう周知しており、管理者が虐待している場合にも、行政等への通達をする旨を職員に周知している。	○	
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書において、十分な説明を行っている。又、疑問点等についても十分に確認し、不安や不信感を与えない様に務めている。	○	

福岡県 グループホームやまびこ 地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が「何が食べたい。こうしろ、ああしろ。」と利用者がいつでも好きな事が、 言える環境を整えると共に、スタッフが個 別に関わり、情報（意見等）を得る体制を 整えている。	○	入居者の不満など一人一人の話を聞き入れ 早めの改善に務めている。又、サービス相 談員の受入において情報を得る体制を整え ている。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	入居者の健康状態について、少なくとも月 1回程度は家族に連絡し、健康管理情報を 共有している。	○	家族と職員との関わりの場が少ない為、都 合がよければ、ミーティングなどの話し合 いの場に参加して頂き、よりその入居者を 理解し、又、ご家族の要望を聞き職員とご 家族間で理解や信頼などを作りたい。
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及 び職員が明確であり、入居者及び家族にそ の利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝え ている。 苦情や要望等はミーティングの場にて管理 者などとより意見を出して反映させてい る。	○	
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	業務事項提案書で意見を出せるようになって いる。又、ミーティングにおいて意見や 提案を聞ける体制をとっており、職員の意 見や提案を反映している。	○	
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	入居者の状態や生活の流れを支援するた めに、これに即した職員の勤務ローテーシ ョンを組んでいる。	○	
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等による、やむを得ない場合の 職員異動では、職員の能力等を勘案して、 適任適材な人事異動を主任会において検討 し入居者への影響を考えている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、グループホームで働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	○	
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	○	
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○	
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム笠松の郷との人事交換研修を実施し、職員が初心を学べる良い成果となった。	○	
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。（外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等）	○	
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。又、職員同士が意見を出し合い、互いに刺激しあう事で、より利用者様や職員がやりがいが出るように工夫している。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個別ケアとして、自室に行って一対一で話す事で、不安や悩み事を理解でき信頼関係を持つことができる。	○	
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常時電話で入所依頼を受ける際に、出来る限り相談を受け、少しでも不安が解消できるように、支援している。見学に来て頂いた時は、管理者を含め話を聞く機会を作っている。	○	
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談において、本人の状況及びその周辺環境を聞き、出来る限り適切なサービス利用等を助言している。電話による問い合わせ等には、事業所の見学を含め、出来る限り来所して頂けるよう、依頼をしている。	○	
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時における本人の不安解消を図る為、入居前の見学や、入居の時には職員がしっかりと関わりを持ち、少しでも早く利用者が馴染める様に思索している。（当法人では、体験入居の事例はない。）	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員には、常に利用者に対等であるということの研修も行っており、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者との時間を共有する事で、関係を作っていくように支援している。	○	入居者が求める事をより介護者が理解し、実現する事でより信頼関係を築いていきたい。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が来られおやつ作りなどを一緒にされ、在宅のように接して頂く事で「見覚えがある」と感じていただく事で、職員の苦労を分かって頂ける事で一緒に支えあう事が出来る。	○	在宅での援助が困難なご家族は、来て頂いた時に本人様と、一緒に過ごされたり、外出時に外泊などしている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様の誕生会や家族会を定期的に行っている。又、ご家族の方が来られた際は利用者様をお連れし外出される。	○	
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に行ったりして、近所の方と話をされたり、なじみの店に行って大好きだった物を食べたりして頂く。	○	家族の本人と一緒にいく機会を持って頂いたり、職員が同行してお連れしている。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合うように努めている	入居者同士の助けあいや気持ちの支えあいができるような支援を、日常的に行っている。(仲の良い入居者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな入居者が交わる機会を作る、世話役の入居者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる、入居者の間に職員が入り、まずは職員と入居者の会話から始まり、自然と他の入居者が会話に入れる雰囲気を作る等)	○	
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方は、時折職員がお見舞いに行ったりしている。家族の方が状況を知らせて下さったりして関係を保っている。	○	
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりがそれまでの暮らしや生き方（個性）を大切に暮らしている。	○	
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の話題から、回想法を作って昔の話をして頂く。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、その日の状況に応じ、散歩に出かけたり、買物に出かけたりしている。又、ご飯の準備や洗濯物たたみを一緒に行い、意味のある1日を過ごせるよう努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活暦等を把握し、一人一人にとって望ましい生活像を目標に、家族、本人と相談しながらアセスメントを行う。課題を明らかにした上で、それに沿ったわかり易い介護計画を作成している。	○	月1度のミーティングを行い介護計画の見直しを行っている。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○	
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や意向は固定せず要望に向き合い支援し、家族の暮らしを守るように支援している。土曜日には迎えに来られる事になっているが、ご家族の都合に応じて対応している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアの方が、定期的に訪問して下さり、利用者さんと関係が出来ている。また社会福祉協議会からも、サービス相談員が訪問して頂いている。	○	

福岡県 グループホームやまびこ 地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	常時入居者の方の個別対応を心がけており、本人の意向や希望を叶えるべく対応を福祉サービスに限らず、多方面での利用等を支援している。（例えば「宇宙に行きたい」という希望にたいして、プラネタリウムに連れて行くなどを実施している。）	○	
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、当施設に対してアドバイスを頂いている。また、当法人の他施設のケアプランを持って頂いており、協働は十分に図れていると思う。	○	
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者又は家族が希望し、又は納得している医療機関、歯科医療機関を受診している。	○	
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療、対処方法等について、指示や助言をもらえる医師を確保している。又、認知症の人の受診の困難さを理解し、受診しやすいよう配慮してれる医療機関、歯科医療機関を確保している。（受診時間の配慮、優先的な診療、必要時の往診等）	○	
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が准看護師の為、日常を問わずいつでも気軽に対応できるし、医療関係の知り合いも多い為、十分に医療活用は出来ている。	○	主治医からの講習を職員は何度か受け、基礎知識など教わっている。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者が重度化しそうな場合を、今までの経験上で、予測が付けられるので、早い段階から御家族、主治医、介護スタッフと相談し、出来る限り重度化しないように全員で方針を共有している。	○	
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りや終末期に対しての、ある程度の方針を決めており、かかりつけ医、御家族、介護スタッフ等、十分に話し合った上で実施するかどうか判断している。（看取り事例1件あり）	○	
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境や暮らし方の変化によるダメージが最小となる様本人に係る関係者（家族など）協力を得て取組んでいる。	○	移り住む際、歓迎会やレクリエーションなど他者と一緒に行い交流の場をたくさん持つ事で、出来るだけ本人の不安やダメージを防いでいる。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。（入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等）	○	
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。（選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ、一緒に選んで頂くような取組を行い本人の意思を尊重している。）	○	
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者一人ひとりの個性を大切にした髪形や服装、おしゃれを支援している。又、入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。（カット、パーマ、染め、セット等）	○	
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりや食材選びを、入居者と共に行っており、可能な限り買い物や調理も一緒に行っている。意思の確認が困難な場合には、好みを把握して献立や調理に活かしている。一緒に準備する事により、味見して頂き好みの味を提供している。	○	
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	献立には、季節感を感じさせるものや、入居者にとって昔なつかしいもの、個別のお祝い等を探り入れている。	○	
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	下着、おむつ又はパットは、入居者一人ひとりのその時々状態にあわせて使い分けている。	○	
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。（時間帯、長さ、回数等）又、足浴を行い、快適に過ごして頂いている。	○	
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。又、休息については、落ち着きのなさや緊張、疲労の程度に応じて、一服したり、心身を休める場面を個別に取れるよう支援している。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中で、状況に応じお手伝いをして頂く。又、手伝いの中で利用者同士の会話が 増え会話する楽しみがもてる。	○	楽しみの一つとして、個別ケアで入居者と 一対一で住み慣れた場所に行ったり、食事をしたりと気晴らしとなり、又、回想法となり、入居者の生活歴をより知れる機会を増やして行く。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○	
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が「戸外に出たい。」と言った際には、すぐに対応しているが、認知症が進んで自ら訴える。	○	ドライブなど入居者の希望を聞き、行ける際は全員で外出できるようにしている。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者が行きたいところを本人や家族から把握しており、訪問が実現するよう支援している。（ふるさと訪問、墓参り、特別な催しへの参加等）	○	
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）	○	
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。（来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	

福岡県 グループホームやまびこ 地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、毎月のミーティング内で、フィジカル、ドラッグ、言葉等について話し合いを持っている。勉強会で身体拘束の資料を配布し、具体的にどのような行為が身体拘束になるか、スタッフも周知している。	○	
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当法人では、夜間を除いていつでも何処でも外に出られるようになっており、利用者が徘徊で外に出られた際は、スタッフが一緒について散歩にいき、利用者が納得出来るまで付き合う支援をしている。	○	
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	排泄、入浴の着脱時など、のれんや扉、カーテンなどを使用し、その都度プライバシーを防ぐ。又、介助が必要な利用者様には、介助後カーテンや扉を閉め、その都度プライバシーを守っている。	○	
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の居室にはその人に見合った環境を取り入れ、在宅と同じような生活をして頂けるようにしている。	○	一人一人見合った物を置いているが、定期的に利用者と一緒に物品の整理などをし、危険な物がないかチェックし、又、ある物を把握している。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。（再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等）	○	
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態の対応策のマニュアルがあり、すべての職員が内容を熟知している。（定期的に勉強会を行っている）	○	月に一度Drが往診に来られた際、職員が疑問点や指導などを聞きたい時に聞き、その都度指導や対処法を学習している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火事などの緊急な事態に備え、避難経路及び避難場所の確保しておくとともに、すべての職員が誘導方法等を熟知している。	○	
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクに対しては、アセスメントをし、ケアプランに反映し、御家族に同意を得て実施できるようにしている。	○	月1度家族に手紙を郵送し事業所での暮らしや健康管理などを伝えている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインチェックで、異常があった際は、すぐに24時間、管理者に報告が取れる体制を備えており、管理者が判断し、主治医に指示を受けられる体制もある。すぐに病院受診する場合もある。	○	信頼関係を築いている事で、以前より本人からの訴えが多く出るようになった。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を把握しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。又、誤薬のないよう、薬箱を設置し何度も確認し徹底している。	○	
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因の周知はもちろんの事、排便に気を配らなければならない利用者には、管理者に定期的に報告し、主治医との連携で適切な処置をして、排便コントロールが図れるようにしている。	○	便秘になり易い利用者には歩行練習など軽度な運動を進めている。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。又、各人の食事をチェックしており、食事量の少ない方には、好みの物を個別に提供している。	○	状況に応じ、食事を拒否される方には他者と一緒に時間には出さず、時間をずらし食欲がある状態で、栄養が片寄らないようバランスよく召し上げて頂く。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルに沿って、感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等）	○	
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルに沿って、衛生管理には十分に気を配っている。当法人の鮮魚は、管理者自ら、魚市場に買出しに行き、毎週木曜日は、お刺身が提供出来る様にしている。	○	食器類など、定期的に漂白をし、より衛生面に力をいれ食中毒を防いでいる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。（玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等）	○	
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。又、廊下やトイレにはその季節、時期に合った物を装飾し季節感を取り入れている。	○	
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。時にウッドデッキにてお茶を飲みながら会話を楽しんだり、居間だけではない空間を作り、団らんが出来るような配慮をしている。	○	

福岡県 グループホームやまびこ 地域密着型サービス外部評価の自己評価票（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○	
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭いや空気のおどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、浴室、トイレ等、手すりが必要不可欠の場所には設置して、出来る限り自立して生活出来るように支援している。また、居間、フロアは転倒しないように、物を置いたりせずに、きちんと整理している。	○	
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人一人に応じたアセスメントをし、ケアプランを元に、チームケアで対応して、利用者それぞれが、本人らしさが出るように、個別に支援している。	○	
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	グループホームの居間から、竹林が見え環境はとても良いと思う。また、ウッドデッキには、屋根が付いているので、全天候に対応できており、いつでも外出した感覚が図れるようにしている。	○	

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①利用者様1人1人が充実した日常生活が出来る様プライドを傷つけず出来ない所は、恥をかかない様にそっと支援をする介護に取り組んでいる。
- ②利用者様の個別ニーズにあった接し方。
- ③家族と利用者が過ごせる時間を多く持つ為に職員の協力で取り組んでいる。
- ④事業所の活動内容を理解して頂き、地域の中で過ごす楽しみを共有できる様に取り組んでいる。